

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：31604

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23251

研究課題名（和文）介護の内容別に見た高齢者福祉の公私ミックス

研究課題名（英文）Mixtures of Lon-term Care Provision: An Application of Task Specific Model

研究代表者

西野 勇人（Nishino, Hayato）

東日本国際大学・健康福祉学部・講師

研究者番号：70845768

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、高齢者介護の場面における、公的サービスと家族の関係を分析した。高齢の親を、子世代の誰が、どのようなパターンで援助するか、また、その選択と公的な介護サービスはどのように関連しているかという点を扱った。分析においては、援助のパターンを「援助なし」「身体的介護を提供」「家事・生活的援助のみ提供」という3つのパターンに分け、どのようなときに、どのパターンの援助のあり方になりやすいかを予測するモデルを推定した。分析の結果、身体的なケアの提供確率に対しては在宅の公的介護サービスの利用が正の相関を持っていたが、家事・生活的援助のみを提供する確率に対しては公的サービスは明確な効果は確認されなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会が必要とされる介護ニーズを満たしつつ、持続可能な高齢者福祉制度を構築することは、日本に限らず、高齢化が進む先進諸国における共通の課題である。その両立のために、政府か家族かの二分法ではない、福祉ミックスのあり方が模索されている。同時に、家族が介護負担を抱えすぎることは様々な問題ももたらす。本研究は、公的サービスと家族介護の関係を理論化することで、高齢者・家族・社会全体にとって望ましい介護供給のあり方を考えることを目指している。分析では、「援助」の中身をいくつかに分けてモデル化することで、介護のタスクによって、公的ケア・私的ケアの関係が異なることを明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：This study investigates the determinants of intergenerational practical support in the Japanese context and focuses on the following sub-questions: "Who is responsible for familial care for elderly parents?" and "How do private care patterns relate to public care services?"

This study observed the following points. First, daughters are the most frequent caregivers in a child generation. Second, compared with fathers, mothers receive more frequent housekeeping help, but less regular physical care from children. Third, according to tasks, Japanese public in-home services promote daily physical caregiving by a child generation. Conversely, utilizing public care services did not significantly influence practical housekeeping help by a child generation.

研究分野：社会学

キーワード：社会保障 高齢者介護 家族介護 公的介護サービス

### 1. 研究開始当初の背景

社会で必要とされる介護ニーズを満たしつつ、持続可能な高齢者福祉制度を構築することは、日本に限らず、高齢化が進む先進諸国における共通の課題である。政策的なトレンドとしては、政府が家族のどちらかではなく、両者の適切な分担が模索されている。

日本も同様に、介護保険の中で家族や地域といったインフォーマルなケアの役割分担が模索されているが、単に公的サービスを削減していく方向性には注意が必要である。介護離職や介護者の貧困など、家族介護の負担がもたらす社会問題は根深く、介護役割の多元化という流れの中で、高齢者・家族・社会のニーズを達成する仕組みが必要と考えられる。

関連分野の研究では、公的介護サービスの利用と家族によるケア提供の関係性について研究が蓄積されてきている。近年の研究では、必ずしも公的サービスと家族によるケアは、どちらかが提供されればどちらかが使われなくなるといった単純な関係ではない可能性が指摘されている。本研究では、そうした公的サービスと家族によるケア負担の関係がどのようになっているか、量的調査の分析を行った。

### 2. 研究の目的

本研究は、高齢の親に対する子からの実践的援助のパターンを明らかにすることを目的とした。

一言で「介護」や「ケア」といっても、具体的に行われているタスクは多様である。入浴や排泄の介助などの身体介護から、買い物への付き添いや料理の手伝いといった家事支援に類するもの、さらには話し相手としての情緒的支援など様々な事柄を含んでいる。そうしたタスクの中には、家族に多大な負担をもたらすパターンもあれば、家族にとっての負担が比較的軽いパターンもあることが推測される。

本研究の分析では、非金銭的援助の中でも、介護も含む世話的な内容の援助を実践的援助と位置づけ、子から親に対し、どのようなパターンの実践的援助が行われるか、その規定要因を明らかにした。特に、子から高齢の親に対する実践的援助をタスクの内容によって区分し、身体介護まで提供する援助のあり方と、家事援助のみを提供する援助のあり方を識別し、それぞれのパターンがどのようなときに選ばれやすいかをモデル化した。

### 3. 研究の方法

「全国高齢者パネル調査」(JAHEAD)のWave5(1999年)、Wave6(2002年)、Wave7(2006年)のデータをSSJデータアーカイブより入手し、二次分析を行った。JAHEADは、東京都健康長寿医療センター研究所(旧東京都老人総合研究所)とミシガン大学および東京大学が実施しているパネル調査である。1987年にWave1の調査が行われてから概ね3年ごとに調査が行われ、これまでに9回の調査が行われている。

今回分析に用いたデータにおいては、回答者である高齢者の介護ニーズや公的介護サービスの利用状況、また、子ども1人1人の状況や回答者との関係などが尋ねられている。分析に際しては、その回答結果を元に親子2世代がグループになったデータ(ダイアドデータ)を作成し、このダイアドデータを対象に分析を行った。

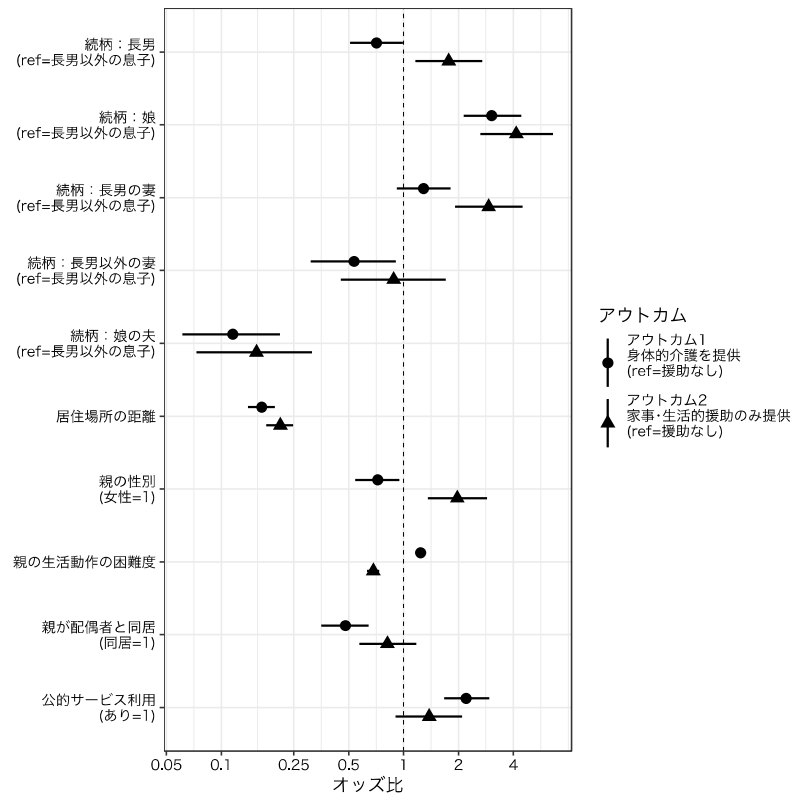
回答者の子どもとその配偶者の側に、「援助なし」「身体的介護を提供」「家事・生活的援助のみ提供」という3パターンの値をとりうるカテゴリ変数を作成した。その変数をアウトカムとしたマルチレベル多項ロジスティックモデルを、ハミルトニアンモンテカルロ法(HMC)によって推定した。

### 4. 研究成果

本研究では、子から親に対する援助のあり方をモデル化することで、子世代の中で誰が、どのような形で援助を提供しやすいのか、また、公的介護サービスはどのように親子間の介護と関わっているかを検証した。モデルの推定結果は図1の通りである。

分析の結果、回答者からみた続柄では、娘によるケア提供の確率が高かった。また、親の性別の効果は、2つのアウトカムで異なっていた。父親と比べ母親に対しては、子側は身体的介護を提供する確率が低く、また家事・生活的援助のみを提供する確率が高いことが示された。次に、タスク別に分けると、身体的なケアの提供確率に対しては在宅の公的介護サービスの利用が正の相関を持っていたが、家事・生活的援助のみを提供する確率に対して公的サービスは明確な効果が確認できなかった。

結果として、子世代の中では娘が援助を提供する確率が特に高いが、長男の妻という続柄による役割は部分的に残っていることも示された。



出所：西野(2021)

図1 子から親への援助パターンを予測するモデルの推定結果

また、身体的介護を提供するような比較的負担が重いと考えられるパターンと、家事・生活的援助のみで援助を提供するような、比較的負担が軽いと考えられるパターンでは、いくつかの点で規定要因が異なることも確認された。

まず、長男とそれ以外の息子を比べた場合、長男の方が身体的介護を提供しにくい一方で、家事・生活的援助のみの提供はしやすい。しかし、長男が身体的介護を提供する確率が低い分、その妻が代わりに身体的介護を提供しているということまでは確認されなかった。

次に、親の性別の効果が身体的介護と家事・生活的支援で大きく異なった。父親と比べ、母親に対しては家事・生活的援助のみを提供するパターンとなりやすい一方、母親に対しては身体的介護を提供するような援助は行われにくいという結果となった。

本研究で残された課題としては、今回検討した援助パターンが高齢者の家族にとっての実質的な負担をどの程度反映しているか検討の余地がある点、在宅で生活する高齢者がサンプルの中心となっていることにより介護保険サービス全体を踏まえた分析となっていない可能性などが挙げられる。それらの点については今後のプロジェクトで検討する課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 西野勇人	4. 巻 18
2. 論文標題 高齢の親に対する子からの実践的援助パターン：親子関係，援助内容，公的サービス利用に着目したマルチレベル分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 福祉社会学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西啓喜、福田紗耶香、西野勇人	4. 巻 27
2. 論文標題 保育意識についての国際比較分析 ISSP2012を用いたマルチレベルモデルによるアプローチ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学大学院社会学研究科年報	6. 最初と最後の頁 7-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------